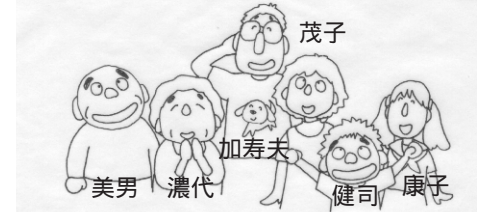


美濃加茂健康ファミリー



第三十八話

痴ほう性老人をかかえる家族のつどい

濃代「このごろお鶴さんようやく元気になってきたみたいだね。ちよっと前までは、痴ほうになった玄さんの介護で心身ともにくたびれとったみたいやけど」

美男「介護保険を使うようになって、少し余裕ができたんやろ。」

濃代「そうやね。二人暮らしなのに、ひとりだなんとかなるって無理しとったでね。時がたてば介護する人も年をとって行くのに、介護はその上に重くのしかかっていくばっかりやでね。一人で抱えるには無理がありすぎるわね。」

「そういえば、お鶴さん痴ほう性老人をかかえる家族のつどい」というのに行ってきたっていつとったわ。なんや今までの心のつかえがとれて、ちよっと楽になったっていつとったわ。介護でたまってるものが出せたって。」

それに、自分だけが介護でしんどい思いをしとるんやないかってわかって、少し落ち着いて介護に向き合えるようになったっていつとったわ。」

美男「そんな集まりがあるのか。一人で悩んどるより、心が安らぐやろうな。信さんとこの嫁さんも悩んどったで教えてやらないかな。」

「痴ほう性老人をかかえる家族のつどい」は、痴ほう性老人の介護をしている人を対象に年4回実施しています。

内容は、講演会や座談会、リフレッシュ行事などを介護経験者のアドバイスをいただきながら実施しています。一人ががんばっているあなた、仲間と共に介護について学び、語り合いませんか。

問い合わせは健康課または、担当のケアマネジャーまで。

「痴ほう性老人をかかえる家族のつどい」は、痴ほう性老人の介護をしている人を対象に年4回実施しています。

内容は、講演会や座談会、リフレッシュ行事などを介護経験者のアドバイスをいただきながら実施しています。一人ががんばっているあなた、仲間と共に介護について学び、語り合いませんか。

問い合わせは健康課または、担当のケアマネジャーまで。

だんらん

生きる力／育む／

乳幼児期から芽生える自立への「思い」、人を信じ、かかわりたいという「思い」、この二つの思いに大きな成長の差ができるのはどうしてでしょう。

子どもとの暮らしの中でよく出会うのは、ハイハイのころから始まる、誰かを捜して振り返る光景です。何かをみつけた！困った！うまくできた！ときなど、必ず大人を捜し、言葉や目で訴えかけてくるのです。自分を見守ってくれる人に期待し、共感を求めてくる瞬間！そのときに自分を遣う温かい目があり、言葉かけをしてもらったり、受け止めてもらった経験、だいたいようぶ！と力づけてもらった経験。実は、その毎日の積み重ねが子どもへの「思い」を大きく育てる事になります。

しかし、元氣な子どもを相手にしていくと、親は、手のかかる事に疲れ、また成長の遅さにいらだち、子どもの「思い」が見えなくなる。子育てという素

晴らしい仕事をしているにもかかわらず「社会から取り残される」という不安でいっぱいになり、子どもの「思い」を受け止められなくなる……。

そんなとき、子どもと親を少し脇からやさしく見守る目が必要になってきます。親の子育てに共感し、温かい心での援助や役割を果たすことに喜びを感じる家族の目。また、「みんな同じ！悩みながら子育てしているんだ」と実感できる子育て仲間。子どものゆっくりとした成長に気づき、共感し合える保育士さんの目。買い物や地域の行事などで声をかけてくださる地域の人の温かい目。そんな中で、親は安定した気持ちで子どもの心と向き合うことができるのです。かつて、自分も3人の幼子を育てていたころ、「もう少しで楽になるよ」「よくやっていくね」と見知らぬ人に声をかけていたこと、にどれだけ励まされたことでしょうか。

地域の子どもを大切に育てたい、誰もが持っている「生きる力」をじゅっぶんに育ててあげたい。そのためには、家族や地域のみなさんとの温かい心のふれあいの中で、子どもたちを大切に育てていきたいと思えます。まずは、声をかけることから……いかがでしょうか。

なつやかん

夏の生ごみについて

夏の生ごみ対策について提言します。毎年夏になると、スイカを食する機会が多くなり、ごみを出す当日、スイカの果汁が、ごみ袋の底に溜まっているのをよく見かけます。

こうしたことを、なくすためわが家では、スイカを買ったとくと皮と果実の部分を分離させ適当な大きさに切り容器に入れて冷蔵庫で保存します。

皮の部分は夏の炎天下では、3〜4日で水分が70パーセントくらい蒸発し、10日くらいで、ダンボール紙のようになり、空き地のない家庭では、ベランダや屋根の上を利用すると良いと思います。

(加茂野町 Yさん)

土木費について

予算や決算の内容を見てい

て、土木費の割合が、いつも多いことに驚かされます。

道路は、まだ、整備中という事で仕方ないかもしれませんが、公園については、時代が変わり、子どもたちが遊ぶ姿を見かけません。(出生数の減少、遊びの変化、行くならテーマパークなど、いろんな理由が考えられます。)

これからの公園は、中高年、お年寄りが健康、体力の維持ができ、仲間作りのできる大人の楽しめる公園であってほしいと思います。

家庭でのごみ焼却について

少し前の話ですが、広報で「家庭ごみの焼却はしないように」が掲載されていましたが、それを読んだ主人が、「もう、ごみは焼却できない。処罰されるぞ！」とうるさく言っていました。記事の効果があつたのではないかと思います。

家庭でのごみの焼却は、やめましょう。

(三和町 Kさん)

男女平等について

男女平等は、結構なことだと思えますが、子どもの心を置き去りにしない配慮が必要だと思えます。誰でもが、男の人と同じように働くというのではなく、仕事の内容や実力に正当な評価をして、育児が終われば、再び社会参加できるシステム作りが必要であると思えます。

(蜂屋町 Kさん)

未来に着眼を！

いつも思っていることです。市は、「過去より現在を、そして、未来を！」の着眼を基本姿勢として持っていたきたい。

特に現在子育て中の家族、母親になる若い女性たちへのまなざしが弱いとは思われませんか。 記念館とか、追悼祭など、確かに過去の業績を取り上げるのも市としては誇らしいことかもしれませんが、そのことがどれだけの力になるのでしょうか。

(太田町 Hさん)

広報にお願い

がんばっている若い家族や団体などをどんどん紹介してください。市政の方向性として、もっと若い人たちにも目を向けてほしいからです。

多面的な取り上げ方を期待します。

(太田町 Mさん)

あなたの身近な話題やうれしかったこと、腹がたったこと、「広報みのかも」を読んだ感想や、特集として取り上げてほしい内容など、気軽に電話やはがき、ファックスまたは電子メールでお寄せください。(広報誌上は匿名で掲載しますが、住所・氏名・電話番号は必ず、お知らせください)あなたの声をお待ちしています。

〒505-8606 美濃加茂市企画部総合政策課広報係
でんわ 0574-25-2111(内線239・241)
F A X 0574-28-1290
電子メール kouhou@city.minokamo.gifu.jp